

#### ■（５７）長年の経験を越えた子どもの感受性

その小６男児は、震災テーマの公開授業の感想を言い終えて席に座ると、大粒の涙を流した。被災地の子どもらは勉強する時間も運動する場所もなかったと講師から教えてもらったと発表した。続けて「その分、勉強もスポーツもがんばろうと言われ、そう思いました」と語った。教室でもらい泣きする子どもが何人も。担任の女性教諭も同じだった。

千葉県内の小学校で、消防士やテレビ記者、ネットによる支援を展開した大学生らとともに、どう被災地支援にかかわったかを子どもたちに伝える授業をした。新聞で被災地の声や現状を伝えるのも復興支援として、手書きのイラスト帳を使いながら解説した。

一コマ３０分。子どもらの熱心さに圧倒され、時間内におさめきれなかった。２０数年の記者経験から、このニュースなら何行の記事と見立てながら取材してきたつもりだった。それが今回は見誤った。想定を越える子どもたちの熱い思いに押されっぱなしだった。

被災県アンケートでは、復興までの期間を「１０年」と答える人が最も多かった。この子どもらが成人してもまだ復興途上ということになる。必ず関心を持ち続けて、と願う（山）